

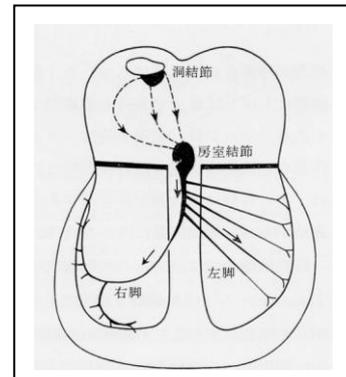
令和1年5月7日

京口門だより No. 67

今年の5月は新天皇が即位され、新しい元号令和の5月となり、国中が祝賀の雰囲気につつまれています。麗しい平和の時代を望みますが、今年は世界情勢が激動すると予測する人もいます。確かに世界ではさまざまな争いの火種がくすぶっており、わが国だけが何事もなく平和だとは言いきれません。油断せず暮らしたいものです。

最近心臓の不整脈の方を診ることがありました。一般に不整脈といってもただ脈拍が乱れることだとして、あまり詳しくは分らないと思いますが、脈拍は心臓内で一定のリズムで動くように調節されています。心臓は左右の心房と左右の心室の四つの部屋に分かれていて、右の心房に心拍のリズムを起こす部位(洞結節)という組織があり、そこから線維(刺激伝道系)が出て左右の心室に分かれてゆき、左右の心室の筋肉へとつながっています。心室という所は全身から帰ってきた血液を、ポンプ力で送り出す所とだけ思えばよいのですが、この心室の筋肉の拍動をこの線維が支配し調整しています(図参照)。

不整脈とは洞結節からはじまる刺激伝道系にさまざまな異常が起こることによって発生します。例えば洞結節のリズムが速くなれば(100以上)頻脈になり、遅くなれば(60以下)徐脈となります。また左右の刺激伝道系の一部が傷つくと、脈拍が乱れる不整脈が起こってきます。こうした心臓の拍動のリズムを乱す病気を一くりに不整脈と呼んでいます。



不整脈には数多くの病気があり、心電図検査を解析して診断をつけます。不整脈のなかには自覚症状のないものと、動悸、胸痛、胸苦しさや時には頭痛や失神などの自覚症状を伴うものもあります。例えば脈がとんでいると分る期外収縮という病気もありますし、心房細動という名前もよく聞きます。心房細動は慢性化してあまり自覚症状のないものもありますが、心房細動があると心不全や脳梗塞を起こすことがあり、血液を固まりにくくする治療や、前に述べた刺激伝道系の一部を切断する(アブレーション)手術をすることがあります。最近では遺伝子治療も行われています。

おおまかに不整脈を説明しましたが、漢方薬も意外に心房細動の症状をよくすることができますし、動悸や胸苦しさを治し、不整脈を改善する漢方薬もあります。